

# 平成31年新年のごあいさつ



洞爺湖町議会議長

佐々木良一



洞爺湖町長

真屋敏春

**皆** さま明けましておめでとうございます。  
昨年は1年を通していろいろな出来事が起こり、大変な年でした。6月～7月にかけては低温・長雨が続き、その後の台風の影響も受け農業にとっては大きな減収となりました。

また、漁業にとってもホタテ貝が原因不明の大量へい死を招くなど大変な年になりました。洞爺湖町を支える1次産業に、このような大きな被害が及んだのは、ほかに例を見ないものであり、その対策を急がなければなりません。

9月6日の北海道胆振東部地震では、厚真・安平・むかわの3町を中心に大きな被害に見舞われました。心よりお見舞いを申し上げます。また、洞爺湖町においても観光業を中心に大きな影響を受けました。

このように各方面で大きな災害を受けた年ではありましたが、近年では想定外の災害がいつ起こるか分からない時代に入ったといえるかもしれません。そのような中で地震対応も大きな混乱もなく乗り切れたことは、町民の皆さんの日ごろの防災に対する意識の高さと、訓練の成果が出たものだと思います。

今回の震災は厳寒期を外れ、また津波も伴わないものではありませんでしたが、これからも想定外の災害に対する備えを皆さんと共に作り上げていかなければと改めて思う所です。

さて、いよいよ平成も終わり、新しい元号へと移ります。今年は今までの経験を生かした新しいまちづくりにまい進して行く年にしたいものです。議会も4月に改選を迎えますが、今年から14人の定員を12人に、2人減の体制で臨むことになりました。今まで以上に町民の皆さまのお力添えを賜われます様お願い申し上げます。

皆さまにとって本年がより良い年であります様お祈り申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ年頭のごあいさつとさせていただきます。

**明** けましておめでとうございます。  
町民皆さまにとって清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また日頃行政へのご支援、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

昨年は、皆さまの力強いご支援で、町長として三期目の重責を担わせていただくことになりました。今期は、第2期洞爺湖町まちづくり総合計画を基本に、虻田地区と温泉地区、洞爺地区の3地域の特性に合った振興策の推進を掲げました。

重点事業として挙げた虻田地区の環境整備事業は、路面のひび割れや側溝の破損などの道路改良を進めているところであり、JR洞爺駅構内エレベーターの整備に関しても、早期整備に向け関係機関と調整をしています。一方、旧洞爺高校跡地を活用した洞爺地域振興策も、新保育所の建設が2月の完成、4月からの通所を予定していて、保育所利用料の半額助成も行い、子育てしやすい環境づくりの推進で定住対策も視野に入れているところです。

観光業にふれますと、昨年の洞爺湖温泉宿泊客数は、北海道胆振東部地震などによる影響で一時落ち込みましたが、関係各位のご努力もあり、その後順調に推移してきています。洞爺湖有珠山ジオパークなどの資源を生かしながら、各産業団体の連携を強化し、世界水準への対応を進めていくことで、交流人口・関係人口などの増加、地域経済の好循環によるにぎわい創出など、地域の創生を推進していきたいと考えています。

2018年の世相を表す漢字に「災」が選ばれたように、昨年も集中豪雨、地震と自然災害の多い1年でした。有珠山を抱え、噴火湾に面している当町において、災害への備えは、重要な取り組みです。想定外を想定し、行政と地域住民がタッグを組み、安全、安心な町づくりにまい進していきたいと思えます。

皆さまが、健やかで、明るい希望に満ちた1年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。